

LIBERA

経法大の今がわかる

[リベラ]

KEIHO MAGAZINE

Vol. **93**

April 2025



未来を生き抜く学び。



大阪経済法科大学

[特集1 | 2024年度卒業生の活躍]

何者にでも なってやれ。 —— 実現した者たち。

SPECIAL
FEATURE
01

自分だけの未来が、ここから。

入学前からはっきりとした目標を持っていた人ばかりじゃない。
悩んだり迷ったりしながらも、ふとしたきっかけから自らの道を見つけ、
確かな歩みを進めることで、夢を実現した卒業生たち。
あなた自身の「今」や「これから」と、ぜひ重ね合わせてみてください。

経済学部

窪田 博樹さん 経済学部卒業 | 山口県立下松高校出身
光安 美津子さん 経済学部卒業 | 大阪市立南高校出身 (現:大阪府立桜和高校)
ジャン・ジャ・ファイさん 経済学部卒業 | ビン・フー高校出身 (ベトナム)

経営学部

野崎 明日葉さん 経営学部卒業 | 大阪府立北摂つばさ高校出身
丸岡 稜さん 経営学部卒業 | 滋賀県立河瀬高校出身
陳 昊然さん 経営学部卒業 | 山東省淄博第一高校出身 (中国)

法学部

日上 雄喜さん 法学部卒業 | 京都府立久御山高校出身
杉原 夢依さん 法学部卒業 | 大阪借星学園高校出身
上島 涼さん 法学部卒業 | 静岡県 浜松開誠館高校出身

国際学部

脇田 真行さん 国際学部卒業 | 奈良県立桜井高校出身
藤井 翼さん 国際学部卒業 | 大阪産業大学附属高校出身

- 02 何者にでも
なってやれ。
—— 実現した者たち。
【特集1】
2024年度卒業生の活躍
- 09 【留学生インタビュー】
世界から集いともに学ぶ。
- 10 【特集2】
高大連携Linkプログラム
- 12 【特集3】
デジタル技術で
社会を変革できる
人材育成を加速させる!
- 14 躍動するクラブ&サークル
 - 女子サッカー部
 - ストリートダンス
 - 学生防犯隊
 - 2024年度秋学期
体育会・文化会クラブ、サークル
団体の主な活動結果
 - 2025年度春学期
体育会クラブ 主要公式戦予定
 - 課外活動の参加方法
- 16 【研究室へのいざない】 Vol.4
氏田 壮一郎教授
張 雪斌准教授
- 18 2025年度
大学事業計画・大学予算
- 20 クラブ&サークルの指導者
インタビュー
硬式野球部 江川 充彦監督

2025年4月28日発行

【編集】 大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581-8511 大阪府八尾市楽音寺6丁目10番地
TEL 072-941-8211 FAX 072-941-4426

<https://www.keiho-u.ac.jp>

「なんとなく」からの相談が、最高の道を切り拓くきっかけに。

公務就職

山口県庁



窪田 博樹さん

経済学部 2025年3月卒業
山口県立下松高校出身

「なんとなく公務員をめざそうかなと考えていた2年生の6月頃、何をすればいいのが相談しよう」と公務就職支援室を訪れました。そこで勧めてもらったのが、地域ボランティアサークルの「創造者（ツクルモノ）」だったんです。

公務員志望の学生が集まるこのサークルで、窪田さんは小学校での環境啓発活動など、仲間と一緒に地域の人々とふ

れあいながら様々なボランティア活動を繰り広げました。

「子どもたちが環境について真剣に考えるようになってくれ、自分たちの活動の意味が実感でき、すごく楽しかったです」。

八尾市役所の職員の方々と一緒に活動する機会も多く、市役所での仕事についてお話を聞くなかで、窪田さんは「自分の本当にしたいことは、利益を追求する企業での仕事ではなく、そこに住む多くの人たちのために働くことだ」と改めて感じました。

「創造者」の先輩に誘われ、

3年生からは公務員志望学生が集まって学ぶ「スタディサークルPASS」にも所属。東大阪市役所でのインターシッピングにも参加し、公務員試験に臨む準備を本格化させていきます。その結果、山口県庁の採用試験に合格できたのです。

「実は国家一般職も二次試験まで受かっていたのですが、生まれ育った山口県のために働きたい想いが強く、山口県庁を選びました。県民のみなさんが何を求めているのかを、しっかりとくみ取れる人材になることが、当面の目標です」。

当初は教師を志していた光安さん。しかし経法大の経済学部に入學し、そこで初めて本格的に触れた経済学に心を奪われました。

「複雑に見える社会も数理モデルで表すことができ、分析や予測ができるという点ですごく面白いと感じました。もっと経済学を深く学びたい」と考え始めた2年生の時、大学院進学を勧められたのがゼミの藤田先生です」。

以降、光安さんは大学院進学に向けた学修を開始。2年次に藤田准教授から授業外に個別指導を受け、3年次

からは「上級ミクロ経済学」など大学院志望学生を対象とした科目を履修し、大学院入試対策を進めました。

一方で、藤田ゼミの仲間と経済学部研究発表大会にも参加。2年次、3年次の2年連続で金賞に輝きました。

「グループで力を合わせて研究に取り組めたことが、とても楽しかったです。ただ3年生の時私たちがより上の経済学部特別賞を取ったグループがあり、悔しさも味わいました」。

この研究発表大会で受けた刺激もモチベーションとなり、受験勉強をさらに加速。

授業での学びや研究発表大会を通して 経済学研究の楽しさに引き込まれた。

その結果、第一志望の神戸大学大学院経済学研究科に合格できたのです。

「大学院で経済学の理論研究を進め、新しい発見をして、いい論文を書いて、少しでも社会貢献に繋がるような成果が出せれば嬉しいですね。そしていずれは大学教授となり、学生たちを指導することで私が受けた恩恵を返したい」といった想いも抱いています」。

進学

神戸大学大学院 経済学研究科



光安 美津子さん

経済学部 2025年3月卒業
大阪市立南高校出身
(現:大阪府立桜和高校)

日本で仕事を求める外国の人たちを 今は自分がサポートする立場に。

就職 バイトレ



ジャン・ジャ・ファイさん
経済学部 2025年3月卒業
ビンフー高校出身(ベトナム)

「日本に興味を持ったきっかけは、アニメで見た日本の桜や夏祭りの美しい風景。母国のベトナムでの就職が厳しいこともあり、チャンス求めてこの日本にやってきました。」

来日後、日本語学校での2年間を経て、ファイさんは経済法大に入学。日本企業への就職をめざし、経済学部での学修に励みました。

「日本語で学ぶ経済学は難

しく感じました。でも国際教育交流センターのサークルでたくさんの友だちができて、日本での大学生活はとても楽しかったです。」

就活を始めた頃は、海外営業を希望。しかし業界研究を進めるうちに、人材ビジネスに強い関心を抱くようになりました。

「私自身も日本でアルバイトを探した時、人材派遣会社の方にすごくお世話になりました。そんな自分と似た境遇の人をサポートする仕事に就けば、達成感が得られそうだと考えたのです。人と話すの

も好きですし、自分に一番合っている仕事だと思いました。」

ファイさんはキャリアセンターで面接練習を繰り返すとともに、日本語力の向上にも努め、BJTビジネス日本語能力テストのJ2に合格。こうした努力が、株式会社バイトレの内定獲得に結びつきました。

「ベトナム語に加え、ずっと学んできた日本語と英語を活用し、日本で働きたい外国人の方々の力になれるのが嬉しい。そしていずれば母国から両親を呼び、一緒に日本で長期的に暮らすことが、私の願いです。」

野崎さんは2年次にゼミの仲間と経営学部研究発表大会に参加。「サブスクのマーケティング分析」というテーマの研究発表で、優秀賞を受賞しました。

「この経験を通して『問題を見つけて自分たちで解決策を探り、それをどう実行すればうまくいくかまで考える』というプロセスをとても楽しく感じて、『将来の仕事でもそういうことができればいいな』と考えるようになりました。そしてそんな私に『きつ』という経験になる」とゼミの登坂先生が勧め

「Idea Presentation)プログラムでした」。

企業への企画提案を行うこのプログラムでは、考え方や視点が異なる他学部のチームメンバーとの意見のすりあわせに、野崎さんはとても苦心しました。

「登坂先生にアドバイスをいただくながら、なんとかチームの考えをまとめて納める発表ができ、結果としていい成長の機会になったと感じています。」

こうした経験から野崎さんは将来の仕事として企画職を志望するようになり、「洋服が好き」という気持ちからアパ

企業への企画提案に挑戦した BIOPプログラムで大きく成長。

就職

ファイイースト カンパニー



野崎 明日葉さん
経営学部 2025年3月卒業
大阪府立北摂つばさ高校出身

レル業界を中心に就活に取り組みました。そしてその希望通り、ファイイーストカンパニーから総合職としての採用内定を得ることができたのです。

「まず店舗での販売の仕事を経験して商品知識や人材マネジメントスキルを養い、その後はプロモーションの企画に携わりたい。授業で学んだマーケティングや経営戦略の知識も、きつと生かせると思います。」

挫折からの一念発起で大逆転！ 背中を押してくれた先生に感謝。

就職 滋賀銀行



丸岡 稜さん

経営学部 2025年3月卒業
滋賀県立河瀬高校出身

中国出身の陳さんは、高校生の時、カナダに1年間留学した経験を持っています。その時に磨いた英語力を生かし、もともと海外で学びたいと考え、高校卒業後は北京の日本語学校に通い、その後、この経法大に入学しました。

「日本に留学しようと思ったのは、小学生の頃から日本のアニメが好きだったからです。アニメを通して、日本の文化や日本の生活に興味を持ちました」。

経営学部では人材管理を中心に学び、なかでも「従業員の意欲を上げて業務の成果向上に繋げる」といったモチ

ベーション理論に強い関心を抱きました。

「会社経営に携わる父を助けたくて、日本の先進的な経営学を学んできました。そしてもっと学びを深めたくなり、次はイギリスの大学院に、と考えました」。

陳さんが志望したのは、ノッティンガム大学大学院のビジネス&マネジメントコースの修士課程。当然、高度な英語力が必要です。カナダ留学で鍛えた英語力をさらに伸ばすため、陳さんは経法大の授業で英語学修に励み、TOEIC 850を達成。それに加えて

「大学で何を学ぶかを考えた時、興味を感じたのが簿記や会計。そうした理由から経営学部を選んで会計学を学び、「税理士をめざそう」と2年生の夏からはSコースの税理士講座も受講しました」。

しかし国家試験に向けた勉強は想像以上に難しく、大好きな部活との両立も困難になってモチベーションを保てず、丸岡さんは税理士への道を断

念しました。

「叱られる覚悟を決めて、ゼミの引地先生にその報告をしに行ったのですが、先生は『君の人生なんだし、自分で早めに結論が出て良かったね』と優しく背中を押してくれました。おかげで『もう落ち込んではいけない！』と奮い立つことができました」。

以降は民間企業をめざしての就活準備と、1年次から頑張ってきた剣道部での活動に力を注ぎました。

「剣道部ではキャプテンも務めました。部員一人ひとりの想いや意見に常に耳を傾

け、それを練習メニューにも反映させることで、部員たちの練習意欲向上といった成果が出せたのが、良かったと思います」。

こうした部活での頑張りも自己アピールの軸にし、会計知識が生かせる金融業界を中心に就活を進め、最終的に滋賀銀行から内定を得ることができました。

「滋賀は地元なのですが、実家に帰るたびに少しずつ街が寂れている感覚があったので、滋賀の中小企業や商店を活気づけられる、熱い銀行員をめざします！」。

会社を経営する父の助けになりたい。 最先端の学びを求め、イギリスへ。

志望理由書の作成など、ゼミの城戸教授からアドバイスを受けながら大学院入試の準備を進め、結果、合格を掴み取ることができました。

「最先端の人材マネジメントの研究に取り組み、父のビジネスや中国の経済発展に役立てられるようになりたい。知識の修得だけでなく、いろいろな経験を積んで、成長をめざします」。

進学

ノッティンガム大学大学院 Business and Management MSc



陳 昊然さん

経営学部 2025年3月卒業
山東省淄博第一高校出身(中国)

同じ目標を持つ仲間たちに刺激され、初めて「挑戦したい」と奮起できた。

公務就職 京都府庁



日上 雄喜さん
法学部 2025年3月卒業
京都府立久御山高校出身

「公務員行政職を志したのは、契約や販売で数字を追求する仕事より、政策を考えるような仕事のほうが性格的に向いていると考えたからです。一方で『難しく自分には無理かもしれない』といった不安も、少なからず抱いていました。そんな日上さんを変えたのが「スタディサークルPASS」との出合いです。

「3年生の時、友だちがサークルの新生勧誘のブースにいたのをたまたま見つけて、公務員志望の学生が集まるこのサークルの存在を知りました。実際に入ってみて、意識の高い仲間たちと一緒に勉強したり、国家公務員試験に合格した先輩の喜びを間近で感じたりするうちに、少しずつ「自分も」という気持ちが強まってきたと思います。」

さらに説明会で実際に行政職に携わる方々から話を聞き、日上さんはモチベーションを高めました。「国や地域の課題について、一人じゃなく、みんなで意見を出し合いながら挑んでいく仕事だとかがい、「それなら自分にもやれそうだ」と感じました。」

サークルの仲間と切磋琢磨を重ね、最終的に京都府庁の採用試験に合格。「自信が持てず、難しい挑戦から逃げてばかりだった自分が、初めて本気で挑んで手にした合格だったので、本当に嬉しかった。京都市内だけじゃない、京都府各地の魅力を広く伝え、過疎対策や地域創生に貢献することがこれからの目標。スポーツ振興にも取り組んでみたいですね。」

警察官になりたいという強い想いを抱く杉原さんに、入学早々、一年次の基礎演習で厳しい指摘をしたのは石川教授でした。

「当時の私は人前で話す時についておどおどしてしまい、声も小さくなりがちでした。『それでは試験に合格できたとしても警察官としてはやっていけない。大声で大勢とコミュニケーションがとれるようになりなさい』という先生の教えを受け、夏休みにテマパークでアルバイトをしてその欠点を克服に努めました。」

アトラクションの轟音が響

くなが、多くの来場客を大声で誘導するといった仕事を通して、杉原さんは著しい成長を遂げます。

「夏休み明けに石川先生から『変わったな』と言ってもらえ、嬉しかったです。」

防犯ボランティア団体では大阪府警察と連携して、地域の安全のためのランニングバトルや防犯啓発イベントなどに取り組みました。

「大阪府警察は第一希望だったので、ボランティア活動のなかで府民安全対策課の警察官の方とお話する機会に恵まれたのもありがたかった

入学早々に先生が指摘してくれた欠点の克服が、4年間の成長の起点。

公務就職 大阪府警察本部



杉原 夢依さん
法学部 2025年3月卒業
大阪府星学園高校出身

です。めざす職場の雰囲気がいかにリアルに感じられ、モチベーションが高まりました。」

Sコースでの筆記試験対策を含め4年間のすべてを注いで臨んだ採用試験の結果、大阪府警察に合格。

「どんな現場を目にしようとも、どんな環境におかれようとも、初心や正義感を失わず、信念を貫いていきたい。それが警察官としての私の抱負です!。」

部員たちを支えるキャプテンから、 地元の商店を支える金融のプロへ。

就職 大阪シティ信用金庫



上島 涼さん
法学部 2025年3月卒業
静岡県 浜松開誠館高校出身

高校の英語科で養った語学力を留学でさらに伸ばしたいと考えて国際学部に入學した脇田さん。しかし当時はコロナ禍で、留学が可能かはまだ不透明でした。

「そんな時期だからこそ自分を認め直すこともでき、改めて『自分は人と話すのが好きなんだ』と気づけました。また、オンライン授業でフィナンシャル出身の先生から母国のお話を聞くなかで、海外への関心もいっそう強まりました。」

いろいろな国の人たちと話したい。それにはやはり留学が一番。そう再認識した脇田さんは、コ

ロナ禍が明けた2年次にトロント大学への留学を果たします。「移民が多いカナダで様々な背景を持つ人たちと出会い、交流するなかで、多文化共生社会を体感できたのが良かったです。」

留学期間中には旅行でアメリカにも出向きました。「その時に宿泊したホテルの雰囲気やサービスに不満を感じ、それと比べると、やはり日本のおもてなしは本当に質が高く、誇れるものなんだと実感しました。」

自分もそんな「日本のおもてなし」を提供する仕事に就きたい。夢を見つけた脇田さ

大阪生まれの上島さんです。が、野球部で甲子園大会をめぐり、高校は静岡県へ。しかし大会はコロナ禍で中止となったのです。

「やり切ることができなかった。だからスポーツ推薦で経法大に入り、野球を続けよう」と決めたんです。

硬式野球部に入部した上島さんは、1年生から投手として活躍。3年生からはキャプテ

ンも務めました。

「チームを強くすること以上に『時間を守る』『きちんと挨拶をする』といった人として当たり前のことを大切に考え、真面目に頑張る部員が報われるチーム作りを心掛けました。一人ひとりと根気よく話し、それぞれの気持ちと向き合いながら、それがチームのまとまりに繋がりました。」

3年生からは卒業後の進路についても本格的に考え始め、スポーツ系の部活に打ち込んだ学生を対象とした合同会社説明会で、大阪シティ信用金庫と出会います。

「アルバイト先の飲食店でオーナーと経営や資産運用のお話をする機会があったので、そうした個人経営店に融資をするといった仕事に親しみを感ずきました。」

以後はキャリアセンターで面接練習に励み、同信用金庫での1日インターンシップにも参加。努力は実り、内定を獲得できました。

「キャプテンとしての頑張りを評価してもらえたのが嬉しい。これからも『人としての当たり前』を徹底し、周囲の信頼を得ながら成長していきたいと思えます。」

「日本のおもてなし」の質の高さを 海外で実感した体験が、転機に。

就職 ホテルニューアワジ



脇田 真行さん
国際学部 2025年3月卒業
奈良県立桜井高校出身

んは、帰国後、授業や接客のアルバイトを通して、ホスピタリティや観光ビジネスについての学びを深めました。そして、国内外から多くのお客様が訪れる、ホテルニューアワジへの就職を実現したのです。

「留学経験も生かし、淡路の良さ、日本の良さを、いろいろな人にお伝えしていきたい。まだまだ勉強も必要ですが、頑張ります。」

多様な人々をお迎えする仕事に 留学時に得た教訓を生かしていく。

就職 星野リゾート



藤井 翼さん
国際学部 2025年3月卒業
大阪産業大学附属高校出身

藤井さんは国際学部での学びを通して「異文化コミュニケーション」への理解に力を注いできました。

「異なる文化を持つ人々が、言語や行動、価値観の違いを理解し、お互いを尊重しながら意思疎通を図る。言葉では簡単ですが、その実践は決して容易ではないと私は考えます。その難しさを実感する機会となったのが、ニューजीラン

ド・オークランド大学への留学でした。

「多様な人種が共に暮らす国で、現地の人々との交流を通して、自分の当たり前が相手の当たり前ではないことに気づかされました」。

こうした体験を経て、藤井さんは「国籍、性別、年齢に関係なく全員が対等の関係」というフラットな組織文化をもつ、星野リゾートへの就職を希望します。

「業界研究に取り組むなかで『自分の価値観とこれほど合致する企業は他にない』と確信し、この一本に絞って就活

を進めました」。

同社のホテルでのインターンシップにも参加し、フロントとビジュアルエナジールチタスクを経験。同社が考える「おもてなし」への理解を深めました。

そして星野リゾートへの就職を実現した今、藤井さんは改めて留学先での経験を思い起こしています。

「自分の当たり前が相手の当たり前ではない。海外のお客様も多くお迎えする仕事のなかで、異文化コミュニケーションの根本とも言えるこの教訓を常に念頭において行動を心がけていきたいと思えます」。



これから「何者にも」なれる 新入生が入学しました。

2025年4月3日13時から第55回大阪経済法科大学入学式、第11回大阪経済法科大学大学院入学式が挙行されました。本年度は経済学部251名、経営学部254名、法学部280名、国際学部212名、大学院経済学研究科18名、計1,015名の新生が入学しました。

式典では各学部、研究科の各代表1名が登壇して宣誓を行い、それぞれの学生生活の期待や各学部での専門的な学修を通した将来の展望、希望進路などが表明されました。

山垣真浩学長（経済学部教授、経済学博士）から、「大学では、まず『何が問題なのか』を自分で見つけることが求められ、一つの明瞭な答えが存在しない中で何らかの解決策を出す必要があり、その方法の修得こそ、大学の学問の神髄であり、また卒業後の社会でも通用するスキルになる」とのメッセージが送られました。そして、英語・中国語で留学生に対するお祝いの言葉が送られました。

式典終了後は、セントラルガーデンにおいて新入生祝賀行事として、クラブ・サークル活動の紹介・勧誘や、芸能人によるライブ等があり、大いに賑わいました。



世界から集い ともに学ぶ。



テーマに沿って自由に会話を楽しむ「E-Talk」と、キーフレーズの練習を通して英会話に慣れる「E-Café」。ともに国際教育交流センター主催の課外英会話プログラムです。いずれも英語力は不問です。ぜひとも参加してみよう!



PEREZ SOLIS ERIKAさん
(ペレス・ソリス・エリカ)
国際学部 国際学科 2年
メキシコ国立自治大学出身

PEREZ SOLIS XIMENAさん
(ペレス・ソリス・ヒメナ)
経済学部 経済学科 2年
メキシコ国立自治大学出身

春学期から「E-Talk」
「E-Café」に新たな講師が
加わりました。一人はメキシ
コ出身の学部生で姉妹。とも
に母国語(スペイン語)と英
語、日本語に加え、エリカさん
(姉)左はドイツ語を、ヒメナ
さん(妹)右はポルトガル語
を話すマルチリンガルです。

外国語を習得するうえで

大切なことは何でしょうか。
「諦めないこと」というのはエ
リカさん。来日時はファスト
フード店での注文もうまくで
きませんでした。それでも諦
めずに学び続けてきた」。ヒ
メナさんは「入学当初は経済
学の専門用語に苦労しまし
たが、学び続けることで理解
できるようになりました。で
きるようになると、もっと勉
強したいと思うのが「語学」
と、ともに継続の大切さを訴
えます。

「ここは多様な学生がとも
に学ぶ場。エリカさんは日本
の大学で英語教員になるの
が夢で「英語を教える経験を
将来に活かしたい」といえば、
ヒメナさんは「卒業後は貿易
関係の仕事に就きたい。日本
だけでなく、いろんな国の
留学生とコミュニケーション
を図れるのが経法大の魅力」
と将来を見据えます。

「授業ではないので失敗を
恐れずに、気軽にアウトプッ
トしてほしい」というのは二
人の共通した考え。「語学を
学んできた私たちの経験を
伝えたい」と心強いメッセー
ジをもらいました。

高校時代の私は英語学習が楽しく、「国際学部で学び、留学に行きたい」といった希望を抱いて進学先大学を検討していました。そして三年生の春、担任の先生の勧めで、経法大との高大連携プログラムを受けることにしました。

プログラムでは、まず経法大の先生が大阪高校に来校され、体験授業を開いてくれました。一学期の間に10回ほど、国際法や国際政治などの講義を聞き、大学の授業のイメージ



井上 玲唯さん
国際学部 国際学科 3年生
大阪高校出身

「高校→大学」の移行に不安なくスムーズに臨めた。

本校から経法大に送り出した生徒は、他大学と比べ、ほとんど中途退学者がいません。一緒に連携を進めてきた成果として確かな手応えを感じています。そして今後、さらにプレ



大阪高等学校との連携協定書調印式

のない高大接続7年間のために、メンター制が有効だと私は考えます。対話を大切に考える本校では、生徒どうしで主体的に協働して何かに取り組むといった授業を積極的に実施してきました。この協働のなかで、生徒たちはお互いの得意・不得意を認め合い、リスペクトし合い、それが様々な気づきや自覚、学習意欲向上に繋がっています。教員とではなく、同世代どうしだから響き合う。私はこれを「同世代リスペクト」と呼んでいます。

高大連携においても、大学生がメンターとなって高校生と対話や協働をすることで、この同世代リスペクトの効果が期待できます。主体性は本来、誰もが持っているものです。ただきっかけがないと、発揮されません。大学生のメンターと話すことが、高校生にとって主体的に動くきっかけになる。大学生にとっても「いま迷っているであろう過去の自分」と対話する場面を有機的につくるのは良いことです。ぜひこの高大連携でのメンター制度を、経法大と一緒に実現したいですね。

たのは良かったです。また体験授業のおかげで入学時からすでに何人かの先生と十分な面識があったのは心強く、大学生活のスタートは非常にスムーズだったと思います。

入学後は韓国でのフィールドプロジェクトや資格試験など様々な挑戦ができています。「英語力を生かして旅行業界で活躍を」という夢も見つけました。高校生の頃に想像していたのと大きなズレのない成長ができてるのは、やはり高大連携プログラムによるところが大きいですね。

教育プログラムや探究活動の連携、さらに高大連携入試まで高大接続が実現!



学校法人 大阪学園
大阪高等学校 キャリアレディネスセンター
キャリアデザイン部主任 探究コーディネーター

金川 昌由 先生

生徒・学生が主体性を発揮できる 高大接続7年間の実現に向けて。

大阪高校 教員インタビュー

大阪高校がめざす生徒像は「主体的に行動するオモロイ18歳」です。授業でもキャリア教育でも、生徒たちの主体性を重視しています。その中心に据えているのが「対話」です。教員との対話や生徒同士の対話の機会を増やし、その対話

のなかで「自分はこの学校で何をしようとしているのか」という自覚を促し、また、自ら語ることで主体性の発揮に繋がっています。進路支援においては、モチベーション、動機づけの促進に向け、産官学いろいろな方々と

繋がって対話ができる外部連携講座を積極的に実施しています。なかでも経法大とは2008年頃から、長く連携に取り組んできました。高大連携において本校は、いま大学への高校教員派遣を推進していますが、その第一回が経法大でした。公務員試験科目の数学の処理の授業に、本校の数学教員がおうかがいさせてもらったのです。本校出身学生に寄り添って一緒に講座を受けるなかで「送り出した生徒たちが、こんなふうには壁に突き当たったりするのか」といった実感を通して、多くの学びを得ています。これに加え、進学前教育への高校教員の参加も強化したい。高大連携は双方向的であるべきです。高大接続7年間を見据え、たうえで本当に必要な進学前教育を、高校と大学、双方の教員の対話を通して実践できないかと考えています。

生徒・学生たちの可能性を最大限に引き出す

高大連携Link プログラム

SPECIAL
FEATURE
02

2025年度より経済学部「政策・データサイエンスコース」、経営学部「ビジネスDXコース」がスタートし、それに備えた花岡八尾駅前両キャンパスのDXリノベーションが完成しました。併せて、「学術情報センター」も設置し、ICTを活用した教育はもちろん、図書館における各種コンテンツのデジタル化など、学生サービス向上に取り組む体制を整えました。

花岡キャンパス図書館1階に開設された「DX TARS」は自主学修やディスカッション、プレゼンテーションなど幅広い用途に対応。八尾駅前キャンパスには最先端のハードとソフトを備えたフロアを5階に設け、アクティブラーニングや企業とのコラボレーションの拡充を図ります。

DXを担う人材は現在、ビジネスや行政を変革する人材として期待されています。今回のリノベーションを通じて、そのニーズに応えられる環境を整備しました。

社会のニーズに応え
最先端のICT設備を
両キャンパスに整備

DXリノベーションが完成
全学部での
積極的な活用を
本学の新たな特色に!

DX TARS

[花岡キャンパス]



プレゼンテーション教室には新たに大型のタッチパネル式LEDパネルを設置



エレベーターホールには大型ディスプレイを設置



企業とのコラボレーション空間となるアクティブラーニング教室

デジタル技術で 社会を変革できる 人材育成を 加速させる!

SPECIAL
FEATURE
03



入口付近のエリアは、安らぎ感のあるウッディな空間



大学関係者約80名が参加した落成式の様子



時間帯や開催するイベントにあわせて照明の色を変えられる

企業とのコラボレーション空間を創出するアクティブラーニング環境

DX Learning Floor

[八尾駅前キャンパス]



入口には3面の大型ディスプレイを設置



自習にも使えるカフェを併設



「DX TARS」のモニュメント

躍動するクラブ&サークル

【課外活動を通じて、成長・挑戦し続ける学生たちを応援します!】

Women's Football

体育会 **女子サッカー部**

顧問 | 関原 智裕 (学生課)

女子サッカー部は、女子学生のスポーツ振興と課外活動を通じた人格形成等を目的に2024年に創部しました。現在、部員は4名ですが、素直で明るく魅力あふれる部員ばかりです。大きな目標は、関西一楽しいサッカー部、人間力を高めあえるチーム作りです。まだまだ試合を行うには人数が足りませんが、八尾市内の高校女子サッカー部と合同練習等を積極的にを行っています。また、高校と協力し女子サッカーの普及や地域に根差したチーム作りにも取り組んでいます。今後、関西学生女子サッカーリーグに出場し、いい結果を残せるよう、選手と協力しながら目標達成に向けて頑張っていきます。

米奥 菜乃葉 (国際学部2年)

女子サッカー部は、現在4名で活動しており、練習は、週2日火曜日と水曜日に行っています。サッカーは11人で試合をしますが、今は試合のできる人数がいまないので、八尾市の女子サッカー部のある高校と合同練習や練習試合に招待してもらいながら、活動を続けています。目標は、単独で関西学生女子サッカーリーグに出場して、試合をすることです。そのために、自分たちのスキルアップはもちろんのこと、女子サッカー部に入りたいと思える魅力あふれる部活にしていきたいです。サッカー経験者はもちろん、初心者の方も歓迎するので、ぜひ私たちとサッカーをしませんか。入部待ってます!



Street Dance

文化会 **ストリートダンス**

顧問 | 岩田 伽椰 (キャリア支援課)

ストリートダンス部は、経法祭や新入生歓迎祭、卒業生祝賀祭等の学内行事に加えて、八尾市役所や外部団体と連携を図りながら、様々な学外行事にも積極的に参加しています。日々の練習では、学外指導者の専門的なレッスンを通して様々なジャンルに挑戦し、ダンス技術・表現力の向上に励んでいます。部活動に学生が主体となって取り組むことで、学生の自主性は育まれ、将来の希望進路を実現するための就業力向上に繋がっています。

部長 | 西山 恵生 (国際学部3年)

ストリートダンス部では、スキル向上に向けた練習はもちろん、協調性やダンスをする楽しさを感じることができるよう活動しています。様々なイベントに出演させていただく機会がありますが、主に「学校・地域をダンス部が中心となって盛り上げる」という目標を掲げ、日々練習に励んでいます。経法祭でも、外部の方と一緒にパフォーマンスを行ったりするため大学外との交流もあり良い経験になります。大学に入って不安や楽しみがあるかと思いますが、ストリートダンス部はみんな仲がよく賑やかな部活なので、入部するととても楽しい大学生活になると思います! 初心者も経験者も関係なくみんなで楽しめる部活動です! 少しでも気になる方は是非見学・体験お待ちしております!!



Student Crime Prevention Team

サークル **学生防犯隊**

顧問 | 石川 英樹 (法学部 教授)
守安 彩乃 (キャリア支援課)

学生防犯隊は、2014年に発足した防犯ボランティアサークルで、地域の防犯活動を行い地域貢献を目的としています。現在、約30名の学生が所属し、八尾市や大阪府警察と連携しながら、地域のパトロール活動や小学校での「防犯教室」に取り組み、防犯意識の向上に努めています。この活動を通じて、地域社会との関わりを深めるとともに、主体的に行動する力やコミュニケーション能力を養うことができます。また、熱心に活動された方には、八尾市や大阪府警察より表彰される機会もあります。地域の安全に貢献しながら、公務員の仕事への理解も深められる学生防犯隊に、ぜひ参加してみませんか。皆さんの入隊をお待ちしています。

隊長 | 上西 那旺 (法学部3年)

学生防犯隊は、警察官や市役所職員の方と一緒に地域の防犯活動を行い、地域貢献ができるサークルです。主に小学校での防犯教室の活動や、地域の青色防犯パトロール活動などを行っています。学生防犯隊は公務員をはじめ、一般企業を志願される方も大歓迎です! 積極的に活動した学生には、八尾市役所や大阪府警から表彰されることもあります。公務員の方にも関わる機会も多いので、公務員の仕事理解も深められます。ぜひ、私たちと一緒に活動しましょう!



2024年度秋学期(10月~3月) | 体育会・文化会クラブ、サークル団体の主な活動結果

<体育会クラブ>

団体名	大会・行事名	主な戦績等
硬式野球部	阪神大学野球秋季リーグ戦 2部東リーグ	4位
軟式野球部	西部大学軟式野球秋季リーグ戦 2部	3位
サッカー部	関西学生サッカー後期リーグ戦 4部Aブロック	12位
ラグビー部	関西大学ラグビーリーグ戦 Cリーグ	8位
卓球部	関西学生卓球秋季リーグ戦 1部	5位
男子バレーボール部	関西大学バレーボール秋季リーグ戦 4部	2位
女子バレーボール部	関西大学バレーボール秋季リーグ戦 6部	6位

団体名	大会・行事名	主な戦績等
バスケットボール部	関西学生バスケットボールリーグ戦 4部Aブロック	2位
バドミントン部	関西学生バドミントン秋季リーグ戦 5部Aブロック	1位(4部昇格)
テコンドー部	全日本学生テコンドー選手権大会等	優勝
剣道部	関西学生剣道選手権大会 関西女子学生剣道選手権大会	出場
アーチェリー部	グリーンカップ	出場

<文化会クラブ、サークル>

団体名	主な活動結果
ストリートダンス部	八尾わいわいフェスタ ダンスパフォーマンス 第53回経法祭ステージイベント ダンスパフォーマンス
音楽研究会	第53回経法祭ステージイベント K-4LIVE
フォークソング部	第53回経法祭ステージイベント K-4LIVE 大阪経済法科大学主催11大学ジョイントライブ

団体名	主な活動結果
吹奏楽部	八尾市吹奏楽フェスティバル オープニングアクト 第53回経法祭ステージイベント
釣り研究部	芦屋浜海浜公園での釣行会
SNSショートムービーサークル	SNSショートムービー撮影合宿
GDL 法律サークル	東京合宿(法務省・東京地裁・早稲田大学大学院見学) 岡山商科大学法曹勉強合宿

2025年度春学期(4月~9月) | 体育会クラブ 主要公式戦予定

クラブ名	開催時期	大会名
硬式野球部	4-5月	阪神大学野球春季リーグ戦 2部東リーグ
軟式野球部	4-5月	西部大学軟式野球春季リーグ戦 2部
サッカー部	4-12月	大阪府社会人サッカーリーグ戦 Cブロック
ラグビー部	9月~	関西大学ラグビーリーグ戦 Cリーグ
陸上競技部	4-5月	関西学生陸上競技対校選手権大会
アーチェリー部	4月	関西学生アーチェリー リーグ戦
卓球部	4-5月	関西学生卓球春季リーグ戦 男子1部
男子バレーボール部	4-5月	関西学生バレーボール春季リーグ戦 4部

クラブ名	開催時期	大会名
女子バレーボール部	4-5月	関西大学バレーボール春季リーグ戦 6部
バスケットボール部	9月~	関西学生バスケットボールリーグ戦 4部
男子バドミントン部	5-6月	関西学生バドミントン春季リーグ戦 4部
テコンドー部	9月	全日本学生テコンドー選手権大会
空手道部	4月	関西学生空手道個人選手権大会
剣道部	4月	関西学生剣道選手権大会
柔道部	5月	関西学生柔道優勝大会
少林寺拳法部	6月	少林寺拳法関西学生大会



課外活動への参加方法 | コントクトの方法や活動時間などの紹介

体育会・文化会クラブ、サークル団体への入部・入会方法

体育会・文化会クラブに入部するには、事前に各団体の入部説明会や練習会等に参加・見学するなど、各団体の活動内容を十分に確認してください。各団体への入部の意思を固めたら、入部を希望する団体の責任者(教職員や学生代表者)に入部届を提出してください。また、興味・関心のあるサークル団体に入会の意思を伝えると入会することができます。各団体への入部・入会方法、連絡の方法や各団体の活動内容などについては、学生課窓口で随時相談を受け付けています。

※大学における課外活動は、あくまで学生の自主性に委ねられています。したがって、クラブ・サークルへの入退部については、個人の意思によって決められるもので、その意思は尊重されます。

新規サークル団体の結成方法

新規サークル団体を結成するためには、顧問1名(教職員)、会員5名(学生)以上が必要になります。顧問、会員を集めることができれば、サークルの活動目的や活動方針を決定し、『団体結成願』などの必要書類を学生課に提出しましょう。学生課での審査を経て、新規サークル団体の結成が許可されれば、学内の施設等を利用して活動することができます。また、サークル活動で様々な活動実績を残すことができれば、体育会・文化会クラブに昇格することができます。

マッサージチェアの「揉み心地」といった感覚的な製品開発に着目。

氏田 壮一郎 教授 UJITA, Soichiro

氏田教授が専門としている研究分野は「イノベーション」。そのなかでも、文部科学省から科学研究費の助成を受けて取り組んでいる「感覚的な便益をもつ製品開発」という非常にユニークな研究テーマについて、お話をうかがいました。

数値化できない目標をプロダクトにどう落とし込む？

イノベーションは、発明とは異なります。どこかの研究室ですごい物質や数学の解法が発見されたとしても、それはイノベーションではない。市場に普及して、初めてイノベーションと呼べるのです。

「ものづくり」から「真似のできない」「価値づくり」へ。

私がこの研究を始めたのは、日本のプロダクトの競争力が落ちてきた頃でした。人件費が安い国にシェアを奪われ、安い製品が市場を席巻して…。「どうすれば日本のメーカーが復権できるのだろうか？」。そう考えて着目したのが「感覚」でした。数値化できるものは真似されやすいですが、感覚的な目標での製品開発というのは簡単には真似できません。何より「競争力」も「コスト」でもなく、い

イノベーションは大きく5つに分類され、そのうちの1つであるプロダクトイノベーションに、私は最も関心を抱いています。研究の題材は、マッサージチェア、炊飯器、カニカマといった製品の開発です。いずれも、開発者が目標を数値化しにくいものばかりなんです。

自動車の燃費やパソコンのCPUの処理速度などは、全部数値で示せます。でもマッサージ機の揉み心地なんて、とても曖昧なものです。カニカマにしても、カニの成分を分析して再現しているわけじゃない。その方法だと水臭くて食べられないので、微妙に味付けをしているんです。炊飯器の炊き上げ具合もそうですが、どれもすごく感覚的ですよ。こういった数字で表せない感覚を、組織としてどう把握、共有し、どうプロダクトに落とし込んでいくか。私はこれを「感性消費型製品開発」と呼び、その解明に取り組み続けています。

実際、数値化できなくても、それぞれの企業で組織としての開発目標を共有認識でできていて、それを市場で売れる製品の創出に繋げることができている。抽象的ですが「プロの揉みワザ」「かまど炊きの味」といった比喩表現が使われるケース

ものをつくってお金儲けをしなれば、顧客やユーザーの視点を基本に、その固有の競争力に基づいた「価値づくり」こそが日本の製造業の生きる道なのです。学生のみならずには、まず基本を大切にもらいたいですね。経営学の基本をしっかり理解したうえで、ニュースなどで見聞きした情報や自分がおかれている状況をそこに当てはめて考えるんです。そこから「なぜこうなんだろう？」と生じたクエスチョンを、明らかにしていく。マッサージチェアの研究も、イノベーションのいろいろな理論や概念を当てはめて、生まれたことなんです。あなた自身のクエスチョンを、ぜひ見つけてください。



PROFILE

氏田 壮一郎 [経営学部 経営学科 教授]

- ◎学位：博士(先端マネジメント)
- ◎最終学歴：関西学院大学 大学院 経営戦略研究科
- ◎主な担当科目：商品開発論、専門演習I・II、卒業研究

大学卒業後、広告会社に10年ほど勤務していたが「もっとマーケティングを学びたい」と大学院へ。そこから本格的に研究の道に進み、関西学院大学 イノベーションシステム研究センター、文部科学省 科学技術・学術政策研究所を経て、2022年に本学に着任。

研究室へのいざない

研究室の扉を開いてみよう

Welcome to the Research Room



「クールジャパン」で日本と他の国々との関係はどう変わる？

張 雪斌 准教授 ZHANG, Xuebin

アニメやゲームなどのポップカルチャー、そして和食や古典芸能なども含めた日本の文化が「クールジャパン」と称され、世界で人気を呼んでいます。その背景にある「パブリックディプロマシー」について、張准教授にうかがいました。

他国の世論を自国の味方にすれば外交がスムーズに。

外交は、従来、政府と政府の間で行われます。国民を代表するような立場の人同士が話し合い、ルールを決めたり、自国の利益を確保したり。これに対して、相手のパブリック、つまり市民をターゲットに行う外交が、パブ

リックディプロマシー(広報文化外交)です。

パブリックディプロマシーには必ずしも政府が関わっているわけではありませんが、最近の動向としては、政府が意図的にその流れに手を加えるケースが増えています。例えば日本のポップカルチャーを、政府が戦略的に各国に売り込んだり、もしくはクリエイターに資金援助をしたり。こうした施策が、長期的に「クールジャパン」に繋がったというわけです。

ではクールジャパン戦略の目的は何か。それは海外の人々に日本の魅力を伝え、親日家を増やすことです。政府同士の外交でぶつかり合いが起きそうな場合でも、相手の国民の支持が得られれば、交渉を有利に運びやすくなりますからね。

クールジャパン戦略のような中長期的なやり方だけではありません。例えば福島第一原発の処理水放出による風評被害が懸念される中、政府関係者が外国の外交官、メディアや市民に対して直接水産物の安全性と美味しさをアピールするのも、パブリックディプロマシーの一例です。

中国や韓国も、日本を強く意識しながら、さまざまなパブリックディプロマシーを講じています。中国の場合ですと、映画やアニメなど文化産業育成

SNSやTが今後の国際関係にも大きな影響力を。

近年では、ソーシャルメディアを使ったパブリックディプロマシーが注目されています。日本や中国の外交官のSNSをチェックし、外交官たちの発信の特徴を分析しています。私たち一人ひとりも、SNSを通してこうした動きと関わり合っていることを忘れてはなりません。なぜなら、それらソーシャルメディアでの発信にも各国政府の政治的なメッセージが含まれているからです。

私は今、言語分析の専門家です。



PROFILE

張 雪斌 [国際学部 国際学科 准教授]

- ◎学位：博士(政治学)
- ◎最終学歴：同志社大学 大学院 法学研究科 政治学専攻
- ◎主な担当科目：国際政治学II、対外政策論、政治地理学

北京市生まれ。10代の頃から「ジャパン・アズ・ナンバーワン」などの本を読んで日本のポップカルチャーに関心を抱き、日本の大学へ。大学院修了後、同志社大学 助教、早稲田大学 総合研究機構 現代中国研究所 次席研究員・研究院講師を経て、2021年に本学に着任。

2025年度

大学事業計画・大学予算

2025年度大学予算及び事業計画が3月17日に開催された理事会において承認可決されましたので、その概要を公表致します。

1 学生募集

○高大連携校100校を目標とし、高大連携事業を全学的に促進し、高大の教育連携と人的交流を進めます。

○大規模プロモーションを継続し、WEB・SNS広報と合わせて、本学の知名度・認知度の向上を図ります。

○国内外で留学生募集活動を展開し、留学生志願者の拡大、受入国・地域の多様化を図ります。

2 各学部及び大学院研究科における教育の充実

○経済学部「政策データサイエンスコース」、経営学部「ビジネスマネジメント・リーダーシップコース」「ビジネスDXコース」、法学部「ビジネス法コース」、国際学部「国際文化コース」等コース改変を行い、特色ある専門重視の教育を展開します。

○留学生の希望進路実現に向け、日本語運用能力の向上を土台に、専門教育、キャリア教育、キャリア支援体制の充実を図ります。

○卒業論文合格率の向上、本学が

取得を推奨する資格合格者の拡大を図り、これらを達成した学生が希望進路を100%実現するための指導を強化します。

○大学院経済学研究科における研究指導を充実させ修士論文の質向上を図ります。

○各学部における学位プログラムから授業科目レベルに至るまでFD（授業内容・方法を向上するための教員の組織的取組み）を通じて、教授法を磨き授業改善を進めます。

○法科大学院進学及び公認会計士など難関試験に向け、正課授業とSCコースへ難関試験を目指す課外講座等との連携を進めます。

○情報教育を充実させ、情報処理やデータサイエンスの基礎的なスキルを身につけ、情報を活用できる能力を育成します。

○正課授業、個別学習、留学プログラムの効果的実施を組みあわせ、英語運用能力の向上を図ります。

3 就業力の育成・キャリア支援

○就職活動の早期化等雇用情勢に対応し、学生一人ひとりに対する個別支援を強化し、学生の希望進路の実現、就職満足度の向上を図ります。

○目的別クラス編成によるキャリア教育を行い、低年次から学生の就業

観と汎用的基礎力を養成します。

○留学生の特性、希望進路を踏まえ、企業の採用ニーズに応える、就職支援行事や個別支援を充実させます。

○公務員合格の拡大に向け、正課内外における教員及び公務就職支援室による指導を充実させます。

4 国際教育・交流

○グローバル人材の育成に向け、留学派遣学生数を拡大させるとともに、学習意欲と能力を備えた優秀な留学生を多様な国・地域から受け入れます。

5 学生生活の支援と課外活動の活性化

○多様化する学生に対応したきめ細やかな学生生活支援を展開します。「いじめ差別・暴力」を許さない取組みを推進し、学生が安全安心なキャンパスライフを実現できるように支援します。

○大学教育における重要な柱として課外活動の活性化を支援します。修学支援制度をはじめとする各種奨学金制度の活用等、学生への経済的支援の充実を図ります。

6 大学の情報化

○学術情報センターのもと、図書等学術情報と情報システム等情報基

盤の整備を行い、学修及び教育研究の情報化とDXの推進を図ります。

○DX TARSやDXフロアの活用、ICT教育の改善充実を推進します。

7 施設設備の整備・利用

○花岡・八尾駅前両キャンパスの機能や価値を付加・向上させるリノベーションを計画し、実施します。

8 地域連携・社会協働

○八尾市との連携を強化し、地域の防災力向上等の取組みを進めます。

○関西経済連合会等での活動により、企業や各種団体との関係を構築します。経済学部でのSMBCCグループによる金融特別講義、経営学部での産学連携授業等を展開し、企業との連携を進めます。

9 研究活動

○建学の理念に基づく大学の国際化に貢献し、グローバルな多文化キャンパスの実現に資する教員を育成するため専任教員を海外の大学または研究機関へ派遣します。

○研究交流会を定期開催し、論文公刊等による研究成果の発信を進めます。

○科学研究費補助金等競争的資金の獲得増に取り組みます。

2025年度 大学予算書

2025年4月1日から2026年3月31日

(単位:千円)

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,120,618
授業料収入	3,862,718
入学金収入	251,400
その他納付金収入	6,500
手数料収入	21,075
入学検定料収入	19,000
試験料収入	75
証明手数料収入	2,000
補助金収入	446,809
大学整備充実資金運用収入	7,350
雑収入	8,500
収入の部合計	4,604,352
当年度収入超過額	87,830

支出の部	
科目	金額
人件費支出	1,949,348
教員人件費支出	1,141,449
職員人件費支出	754,146
退職給与引当特定資産繰入支出額	53,753
教育研究経費支出	1,552,430
奨学費支出	755,263
報酬委託手数料支出	306,820
その他教育研究経費支出	490,347
管理経費支出	486,833
広報費支出	164,568
報酬委託手数料支出	154,437
その他管理経費支出	167,828
建物等減価償却引当特定資産繰入支出額	371,196
建物等修繕引当特定資産繰入支出額	100,000
その他の支出	56,715
支出の部合計	4,516,522

※この2025年度大学予算は、本学が予算管理目的のために設定している「大学の予算」の収支を勘定科目別に表示したものです。

収入について

2025年度の収入の概要は、以下のとおりです。

(金額は、すべて概算額です。)

①「学生生徒等納付金収入」

41億2千万円

新入生、在学生から納めていただく入学金、授業料等の学費です。本学における、主要な財源となっています。

②「手数料収入」

2千万円

入試の検定料等の収入です。

③「補助金収入」

4億4千万円

私立大学等経常費補助金と修学支援法による授業料減免費交付金であり、2024年度交付額を基準として計上しています。

支出について

2025年度の支出の概要は、以下のとおりです。

①「人件費支出」

19億4千万円

専任教職員や非常勤講師、嘱託職員・契約職員等に支払わ

れる給与、手当及び退職給与引当特定資産繰入支出額などです。

②「教育研究経費支出」

15億5千万円

教育、研究に直接要する経費であり、前項の事業計画に沿って編成しています。

③「管理経費支出」

4億8千万円

教育研究活動を支える大学管理運営上の経費や、学生募集経費などです。

④「建物等減価償却引当特定資産繰入支出額」

3億7千万円

建物及び構築物の減価償却分を積み立て、建物等の建替えや施設等の充実に活用する特定資産です。

⑤「建物等修繕引当特定資産繰入支出額」

1億円

長期修繕計画に基づき、修繕費を積み立てている特定資産です。

⑥「その他の支出」

5千万円

教育研究用の機器備品・図書などの購入費です。

野球の技術向上とともに 人間的な成長を遂げてほしい。



[クラブ&サークルの指導者インタビュー]

現在、阪神大学野球連盟2部東リーグに所属する硬式野球部は、かつては全日本大学野球選手権大会(明治神宮大会)出場を果たした実績のあるクラブです。ところが江川監督が就任した12年前は、「当時、部員数わずか20名ほど。就任前には3部リーグまで降格した時期もあり、そこから復活をめざしてきました」と、まずはチームの再建に取り組み、今では70名を超える選手たちが所属する規模にまで発展しています。

江川監督が「私の一番の仕事」と位置付けているのが選手一人ひとりの伸び代を見つけること。「弱点は自覚しやすいのですが、伸び代というのは自分ではなかなかわかりません。1年生や2年生の段階でその伸び代を見つけてあげる。こうしたらもっと伸びるという気持ちを与えて、あとは自分で考えさせる指導をしています」。

普段の練習は選手の主体性を重視し、キャプテンと主務が主導する体制をとっています。「私が練習メニューを指示することはありません。監督がそれをすると選手の自主性を奪ってしまいます。大学生なら自ら考えて動く。そのうえで選手間の競争、切磋琢磨を促す環境を作っています」。

野球の技術向上をめざすのは部として当然ですが、江川監督がそれ以上に大切にしているのは礼節です。「第一はマナー。それをなくして野球が上手くなっても意味がありません」と「人材育成の場」であることを強調します。実際、入部した学生たちは年次が上がる「こ」に言葉づかいが見違えるほど大人になっていくそうです。

人材育成の場としての側面がよく表れているのが「選手が希望する進路は全力で応援する」という方針です。自己PR

となる自分の強みを磨くための助言は、選手の頑張りを身近で見ているからこそ可能な支援といえます。

今めざしているのは、まず2部東リーグの優勝と東西戦を制しての2部優勝。さらに次のステップとして1部リーグ昇格という地に足のついた2段階の目標を掲げます。その日をめざして、部員たちと共に、グラウンドに立ち続けます。

江川 充彦 | 硬式野球部 監督 (学術情報センター事務局長兼図書課長)

1968年和歌山県生まれ。和歌山県立箕島高等学校で硬式野球部に所属。県大会決勝まで勝ち進むも、あと一步で甲子園出場を逃す。1987年大阪経済法科大学経済学部入学。経法大では「一緒に強くないか」と勧誘を受け、ソフトボール部で活動。3年生から主将を務め、4年生の秋季リーグ戦では2部優勝、初の1部昇格を果たす。卒業後、社会人ソフトボールクラブの選手兼監督を22年間経験。アパレル企業の営業勤務を経て1992年本学に入職。



硬式野球部

BASEBALL
CLUB